

令和 5 年 3 月 30 日

三井不動産株式会社
宗教法人明治神宮
独立行政法人日本スポーツ振興センター
伊藤忠商事株式会社

令和 5 年 1 月 30 日の環境影響評価審議会総会において、日本エコモス国内委員会からの要請書に対して回答するよう要請があった件について、以下の内容について回答いたします。

「日本エコモス国内委員会からの指摘事項」

1. 生物・生態系の現況調査における科学的調査手法の誤りと虚偽の報告について
2. 生物・生態系の「予測」における誤りと虚偽の報告について
3. いちょう並木の現状報告における事実を隠蔽した資料の提出と虚偽の報告
4. 評価書の「環境に及ぼす影響の評価の結論」における虚偽の報告について
5. 事業者が提示している緑の割合とオープンスペースの割合について

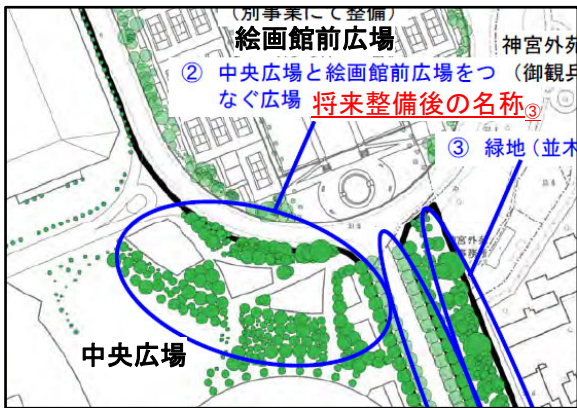
上記内容について次頁以降に詳細回答をさせていただきます。

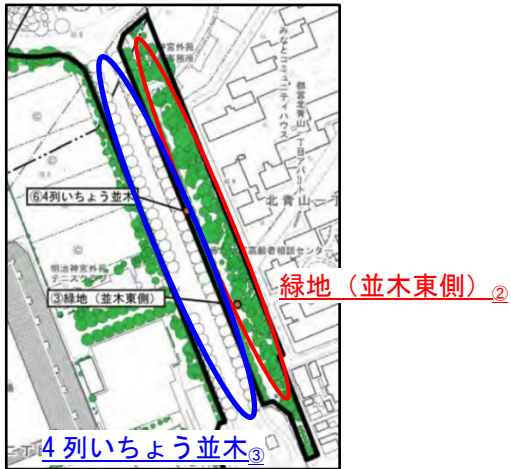
「本ご報告の結論」

日本エコモス国内委員会より指摘のあった各項目の確認・検証を行った結果、令和 5 年 1 月 10 日に提出をした環境影響評価書に関する指摘の誤り及び虚偽の報告はないことを確認し、環境影響評価書に記載の調査、評価・予測に変更が生じないことをご報告いたします。

※日本エコモス国内委員会からの要請書については 2023 年 1 月 23 日、1 月 29 日、2 月 20 日に発
出されていますが、本資料は最後に発出された 2 月 20 日版のものに対して回答したものです。

1. 「生物・生態系の現況調査における科学的調査手法の誤りと虚偽の報告」に関する回答の要請
(評価書本編：295～330 頁)

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
1	1-1	図8.6-2 植物群落調査地点① ②の地点は、テニスコートであり、評価書に記載されている「中央広場と絵画館前広場をつなぐ広場」は存在しない。	「図 8.6-2 植物群落調査地点」のうち「②中央広場と絵画館前広場をつなぐ広場」がテニスコートとの指摘については、テニスコートではなく円周道路沿いの緑地②を対象に調査を実施しております。なお、地点名の「中央広場と絵画館前広場をつなぐ広場」については「図 8.6-16 樹木の分布状況（建設後）」等を示す将来整備後の名称③を使用しております。 (植物群落調査：植物の種類や地面を被っている割合（被度）、高さ等についての調査)   図 8.6-2 植物群落調査地点①より抜粋 図 8.6-16 樹木の分布状況（建設後）より抜粋	298
			注) 文中の下線部右下の丸番号は、図タイトル及び図中の説明文の丸番号に対応します（以降同様）。	

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
2	1-2	図8.6-2 植物群落調査地点① ③緑地（並木東側）は延長300m以上あり、調査地点1ヵ所は不十分。	植物群落調査において、緑地（並木東側）②の調査地点が1ヵ所は不十分との指摘については、緑地（並木東側）は基本的には改変を行わない場所であるとともに、植生は均質となっております。また、調査地点・範囲については、既存技術資料※を参考に相観的・構造的（外観的）に均質と考えられる植生のまとまりを対象に必要な面積で実施しています。そのため、当該樹林帯の代表箇所1箇所の調査で十分と考えております。【補足資料 No. 1、No. 3 参照】 ※既存技術資料：自然環境アセスメント技術マニュアル（自然環境研究センター）、森林立地調査法（森林立地学会）、河川水辺の国勢調査マニュアル（国交省）、新しい河川植生調査手法（案）（土木研究所）、日本の植生（学習研究社）、植生調査法Ⅱ（共立出版）等。	298
3	1-3	図8.6-2 植物群落調査地点 ⑥4列いちょう並木における調査地点1ヵ所は不十分。	植物群落調査において、4列いちょう並木③の調査地点が1ヵ所は不十分との指摘については、外観により南北方向で概ね均質な並木となっております。また、調査地点・範囲については、既存技術資料を参考に外観的に均質と考えられる植生のまとまりを対象に必要な面積で実施しています。そのため、当該樹林帯の代表1箇所の調査で十分と考えております。【補足資料 No. 1、No. 3 参照】  図 8.6-2 植物群落調査地点①より抜粋	298

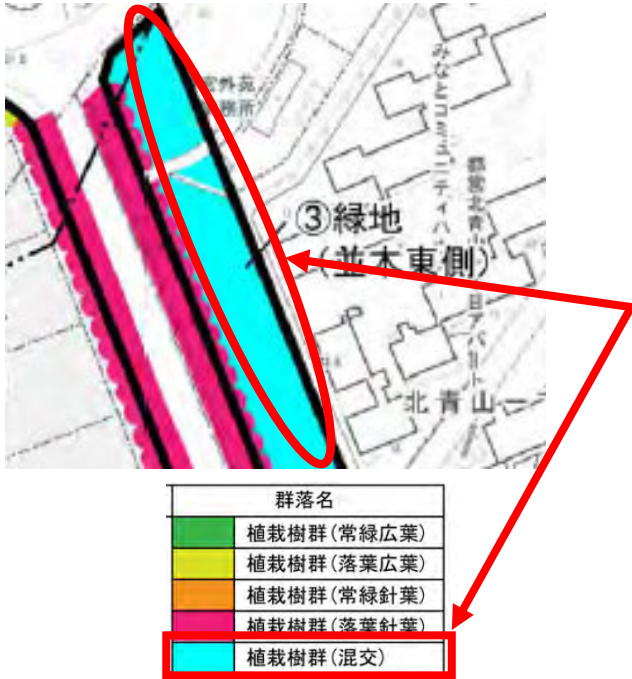
通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
4	1-4	図8.6-1 生物・生態系調査地点 図8.6-2 植物群落調査地点① 図8.6-3 土壌動物調査及び土壌環境調査地点② 土壌調査では参考-1,2,3 として聖徳記念絵画館周辺の調査が行われているが、群落調査は連動して行われていない。聖徳記念絵画館周辺は、既存資料調査範囲に包含されているためすでに群落調査は行われているはずであるから、記載すべきである。 これは、生態系のネットワークにおいて市街地開発事業による影響を評価する上で、基本となる現況調査の情報である。	絵画館前について、土壌調査を実施している一方、群落調査を実施していない理由については、<u>絵画館前は環境影響評価の範囲対象外のため、群落調査は実施しておりません③</u>。また、絵画館前の土壌動物調査及び土壌環境調査は<u>移植木の仮移植先の候補地の環境を把握するために実施④</u>いたしました。 なお、既存資料調査において聖徳記念絵画館周辺の群落調査が実施されているため記載すべきとの指摘については、既存資料調査（「東京 2020 オリンピック・パラリンピック 競技大会実施段階環境影響評価書（新国立競技場（オリンピックスタジアム）」）では絵画館周辺での群落組成に関する調査は実施されておりません。  	297 298 301

図 8.6-2 植物群落調査地点①より抜粋

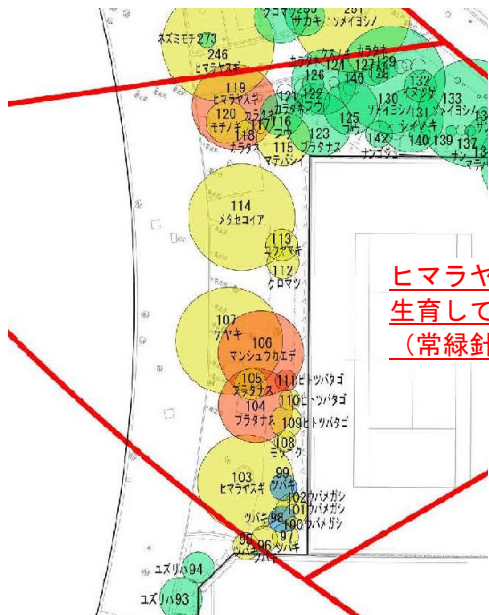
図 8.6-3 土壌動物調査及び土壌環境調査地点②より抜粋

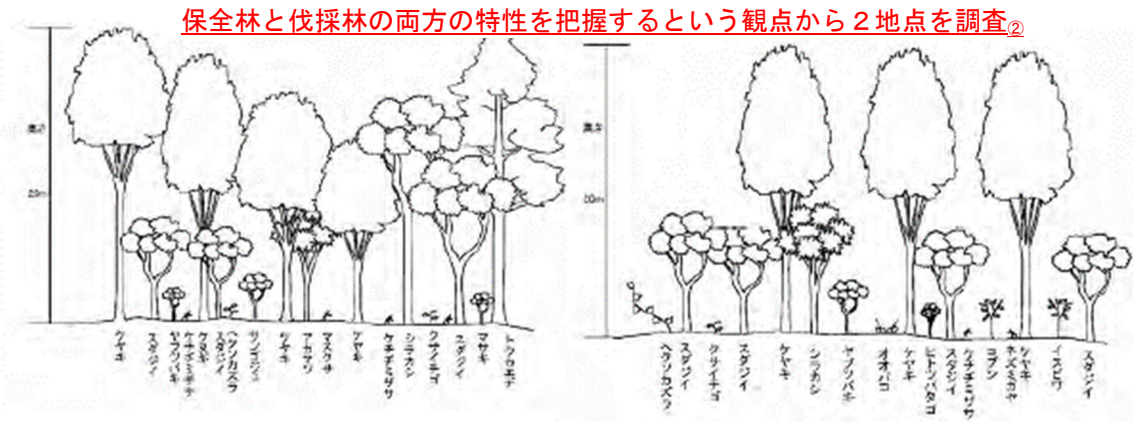
通し 番号	章- 番号	日本エコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
6	1-6	植生の記述において、「神宮外苑広場（建国記念文庫）周辺等に植栽樹群（落葉広葉）が分布」は、誤り。 表8.6-11 植生区分に誤り。 理由：日本エコモス要請書（1月29日の3～4頁に記載。	p. 307 記載の（イ）植生における「神宮外苑広場（建国記念文庫）周辺等に植栽樹群（落葉広葉）が分布」との記述が誤りとの指摘について、この記述は p. 309 記載の図 8.6-4「緑地の分布状況」を基に記述しておりますが、この図は植生調査を行った結果をとりまとめたものであり、図中では落葉樹が優占する植栽樹群に分類しています。 また、群落調査は、生態系保全の目標を設定することを目的として、詳細な群落構造を確認したものであり、調査結果は資料編 p. 467～473 に記載しています。神宮外苑広場（建国記念文庫）は評価書 p. 310 及び p. 324 に記載した通り、「<u>落葉樹の下にシラカシなどの常緑広葉樹が成立する常緑落葉混合林で構成された階層構造を有するまとまった樹林帯が存在する</u>」^①として記載させて頂いております。群落調査の結果、常緑と落葉が成立する樹林帯として記載させて頂いておりますので、誤りはございません。 (イ) 植物群落 図 8.6-4 に示す①～⑥の植生断面図を図 8.6-5(1)～(6)に示す。また、群落組成調査結果を資料編 p. 467～473 に示す。 ① 神宮外苑広場は、樹高の高いケヤキなどの落葉樹の下にシラカシなどの常緑広葉樹が成立する常緑落葉混合林で構成された階層構造を有するまとまった樹林帯が存在する。常緑と落葉が成立する樹林帯^① 評価書 p. 310(ウ)植物群落より抜粋	307 308

通し 番号	章- 番号	日本エコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)																															
7	1-7	表8.6-11 植生区分① 当該区域に広く分布する常緑広葉・落葉広葉混交林が分類されていない。	「常緑広葉・落葉広葉混交林」が分類されていないとの指摘について、「常緑広葉・落葉広葉混交林」は p. 308 記載の表 8.6-11 の「植栽樹群（混交）」に該当し、分類をしております。 <table><tr><th colspan="4">表 8.6-11 植生区分</th></tr><tr><th>植生区分</th><th>植生基本分類</th><th>群落名</th><th>概要</th></tr><tr><td rowspan="4">木本群落</td><td rowspan="4">植林地（その他）</td><td>植栽樹群（常緑広葉）</td><td>スダジイやマテバシイ、クスノキ等の常緑広葉樹が優占する植栽樹群。</td></tr><tr><td>植栽樹群（落葉広葉）</td><td>ケヤキやトウカエデ等の落葉広葉樹が優占する植栽樹群。</td></tr><tr><td>植栽樹群（常緑針葉）</td><td>クロマツやカイヅカイブキ、ソテツ等の常緑針葉樹が優占する植栽樹群。</td></tr><tr><td>植栽樹群（落葉針葉）</td><td>ラクウショウやメタセコイア、イチヨウ等の落葉針葉樹が優占する植栽樹群。</td></tr><tr><td></td><td></td><td>植栽樹群（混交）①</td><td>各種の樹木が混生して優占種が判別できない植栽樹群。</td></tr><tr><td rowspan="3">その他</td><td>グラウンドなど</td><td>公園・グラウンド</td><td>土地利用が小規模な児童公園やグラウンドのもの。</td></tr><tr><td rowspan="2">人工構造物</td><td>構造物</td><td>土地利用が建築物等のもの。</td></tr><tr><td>道路</td><td>土地利用が道路のもの。</td></tr></table>	表 8.6-11 植生区分				植生区分	植生基本分類	群落名	概要	木本群落	植林地（その他）	植栽樹群（常緑広葉）	スダジイやマテバシイ、クスノキ等の常緑広葉樹が優占する植栽樹群。	植栽樹群（落葉広葉）	ケヤキやトウカエデ等の落葉広葉樹が優占する植栽樹群。	植栽樹群（常緑針葉）	クロマツやカイヅカイブキ、ソテツ等の常緑針葉樹が優占する植栽樹群。	植栽樹群（落葉針葉）	ラクウショウやメタセコイア、イチヨウ等の落葉針葉樹が優占する植栽樹群。			植栽樹群（混交）①	各種の樹木が混生して優占種が判別できない植栽樹群。	その他	グラウンドなど	公園・グラウンド	土地利用が小規模な児童公園やグラウンドのもの。	人工構造物	構造物	土地利用が建築物等のもの。	道路	土地利用が道路のもの。	308
表 8.6-11 植生区分																																			
植生区分	植生基本分類	群落名	概要																																
木本群落	植林地（その他）	植栽樹群（常緑広葉）	スダジイやマテバシイ、クスノキ等の常緑広葉樹が優占する植栽樹群。																																
		植栽樹群（落葉広葉）	ケヤキやトウカエデ等の落葉広葉樹が優占する植栽樹群。																																
		植栽樹群（常緑針葉）	クロマツやカイヅカイブキ、ソテツ等の常緑針葉樹が優占する植栽樹群。																																
		植栽樹群（落葉針葉）	ラクウショウやメタセコイア、イチヨウ等の落葉針葉樹が優占する植栽樹群。																																
		植栽樹群（混交）①	各種の樹木が混生して優占種が判別できない植栽樹群。																																
その他	グラウンドなど	公園・グラウンド	土地利用が小規模な児童公園やグラウンドのもの。																																
	人工構造物	構造物	土地利用が建築物等のもの。																																
		道路	土地利用が道路のもの。																																
8	1-8	図8.6-4 緑地の分布状況 ①神宮外苑広場（建国記念文庫）は植栽樹群（落葉広葉）ではない。 理由：日本エコモス要請書（1月29日）の4、11～25 頁に詳述。	p. 309 記載の「図 8.6-4 緑地の分布状況」の中で、神宮外苑広場（建国記念文庫）は植栽樹群（落葉広葉）と記載しているのは間違いとの指摘について、この図は植生調査を行った結果をとりまとめたものであり、図中では落葉樹が優占する植栽樹群に分類しています。 また、群落調査は、生態系保全の目標を設定することを目的として、詳細な群落構造を確認したものであり、調査結果は資料編 p. 467～473 に記載しています。 神宮外苑広場（建国記念文庫）は評価書 p. 310 及び p. 324 に記載した通り、「落葉樹の下にシラカシなどの常緑広葉樹が成立する常緑落葉混合林で構成された階層構造を有するまとまった樹林帯が存在する」として記載させて頂いております。群落調査の結果、常緑と落葉が成立する樹林帯として記載させて頂いておりますので、誤りはございません。	309																															

通し 番号	章- 番号	日本エコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)												
9	1-9	図8.6-4 緑地の分布状況 ③緑地（並木東側）は、植栽樹群（混交）ではない。 理由：日本エコモス要請書（1月29日）の8～9頁に詳述。	p. 309 記載の「図 8.6-4 緑地の分布状況」の中で、③緑地（並木東側）は「<u>植栽樹群（混交）</u>」^①ではないとの指摘について、「植栽樹群（混交）」は p. 308 記載の「表 8.6-11 植生区分」の中で「各種の樹木が混成して優占種が判別できない植栽樹群」と説明しています。この表現は、既存資料調査「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会実施段階環境影響評価書（新国立競技場（オリンピックスタジアム））」と同様の表現を行っており、「混交」と記載することが適切と考えています。  常緑広葉樹と落葉広葉樹などが共存している場として「植栽樹群（混交）」と記載^① <table><thead><tr><th colspan="2">群落名</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td>植栽樹群(常緑広葉)</td></tr><tr><td></td><td>植栽樹群(落葉広葉)</td></tr><tr><td></td><td>植栽樹群(常緑針葉)</td></tr><tr><td></td><td>植栽樹群(落葉針葉)</td></tr><tr><td></td><td>植栽樹群(混交)</td></tr></tbody></table> 図 8.6-4 緑地の分布状況より抜粋	群落名			植栽樹群(常緑広葉)		植栽樹群(落葉広葉)		植栽樹群(常緑針葉)		植栽樹群(落葉針葉)		植栽樹群(混交)	309
群落名																
	植栽樹群(常緑広葉)															
	植栽樹群(落葉広葉)															
	植栽樹群(常緑針葉)															
	植栽樹群(落葉針葉)															
	植栽樹群(混交)															

通し 番号	章- 番号	日本エコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
10	1-10	図8.6-4 緑地の分布状況 ②のエリアは、植栽樹群（常緑針葉） ではない。	p. 309 記載の「図 8.6-4 緑地の分布状況」の中で、②のエリアは「植栽樹群（常緑針葉）」ではないとの指摘について、このエリアは p. 301 記載の「<u>図 8.6-3 土壌動物調査及び土壌環境調査地点①</u>」における「②中央広場と絵画館前広場をつなぐ広場」を示しています。これは、p. 309 記載の「図 8.6-4 緑地の分布状況」における「植栽樹群（常緑針葉）」のエリアや、「植栽樹群（落葉広葉）」の円周道路沿いの緑地も含めたエリアを示しています。 なお、「植栽樹群（常緑針葉）」のエリアはヒマラヤスギ、クロマツなどが生育しているため、「植栽樹群（常緑針葉）」と判断②しており、誤りはございません。 毎木調査結果  図 8.6-3 土壌動物調査及び土壌環境調査地点① より抜粋  図 8.6-4 緑地の分布状況 より抜粋	309

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
			 ヒマラヤスギ、クロマツなどが 生育しているため、「植栽樹群 (常緑針葉)」と判断② 資料編 p. 217 毎木調査エリアより抜粋	

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
11	1-11	図8.6-5(1) 神宮外苑広場（建国記念文庫）の植物群落調査^①における方形区のとりの方の基礎的誤り。 - 植物社会学では、方形区は基本的に樹木の樹高を踏まえて、方形で調査区を設定する。地形的に困難な場合は、この限りではないが、当該区域は平坦地であり、原則通り、方形区を採用することが可能な区域である。 - 群落調査表では、15×30mが2ヵ所となっており、群落名も、植栽樹林群（ケヤキ）となっている（資料編467、468頁）。 - 方形区ではないため、植生断面図が正しく表現されていない。	植物群落調査の調査区が方形区（四角い範囲）ではないとの指摘について、植物群落調査の方形区の設定は、既存技術資料※では現地の状況に応じてその形状は変更されるものとされており、本調査でも現地の状況（形状等）を踏まえて適切に設定しています。調査範囲については、既存技術資料※を参考に外観的に均質と考えられる植生のまとまりを対象に、必要な面積で実施しています。神宮外苑広場（建国記念文庫）の森は、本来は1つの群落であるため1地点ですが、<u>保全林と伐採林の両方の特性を把握するという観点から2地点^②</u>としています。 【補足資料 No. 1、No. 3 参照】 ※既存技術資料：自然環境アセスメント技術マニュアル（自然環境研究センター）、森林立地調査法（森林立地学会）、河川水辺の国勢調査マニュアル（国交省）、新しい河川植生調査手法（案）（土木研究所）、日本の植生（学習研究社）、植生調査法Ⅱ（共立出版）等。  図 8.6-5(1) ①神宮外苑広場（建国記念文庫）の植生断面図^①	310

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
12	1-12	神宮外苑広場（建国記念文庫）の群落区分が、落葉広葉（309 頁）、常緑落葉混合林（310 頁）、ケヤキ林（資料編467、468 頁）とすべて異なっている。 群落調査表および現地調査では、常緑落葉混交林である。	評価書の各ページで群落区分が異なるとの指摘について、各図や表において説明内容・目的に応じて適切に表現していることから、誤りはございません。 ① p. 309 「図 8.6-4 「緑地の分布状況」： この図は植生調査を行った結果をとりまとめたものであり、図中では<u>落葉樹が優占する植栽樹群①</u>に分類しています。 ② p. 310 植生断面図： 生態系保全の目標を設定することを目的として、詳細な群落構造を確認したものであり、調査結果は資料編 p. 467～473 に記載しています。神宮外苑広場（建国記念文庫）は評価書 p. 310 及び p. 324 に記載した通り、「<u>落葉樹の下にシラカシなどの常緑広葉樹が成立する常緑落葉混合林で構成された階層構造を有するまとまった樹林帯が存在する</u>」②として記載しています。 ③ 資料編 p. 467、p. 468 群落調査結果： <u>被度群度が</u>高い高木層の樹種名③を記載しています。 図 8.6-4 緑地の分布状況より抜粋 P310(ウ) 植物群落より抜粋	309 310 資料編 467、468 頁

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)																																																																																																								
			表 2. 4-20(1) 植物群落調査結果(神宮外苑広場(建国記念文庫)北側) 被度群度が高い高木層の樹種名(ケヤキ)③ <table><tr><td>群落名:</td><td>植栽樹林群(ケヤキ)</td><td>調査日:</td><td>2022/6/29</td><td>調査地点:</td><td>14</td></tr><tr><td>地 形:</td><td>平坦</td><td>風 当:</td><td>中</td><td>方 位:</td><td>-</td></tr><tr><td>土 壌:</td><td>人工土</td><td>日 当:</td><td>中陰</td><td>傾 斜:</td><td>0</td></tr><tr><td>標 高:</td><td>39m</td><td>土 湿:</td><td>適</td><td>面 積:</td><td>15×30m</td></tr></table> <table><tr><td>階層構造:</td><td>優占種</td><td>高さ(m)</td><td>植被率(%)</td><td></td></tr><tr><td>T1 高木層</td><td>ケヤキ</td><td>12 ~ 20</td><td>95%</td><td>備考</td></tr><tr><td>T2 亜高木層</td><td>スダジイ</td><td>4 ~ 12</td><td>30%</td><td></td></tr><tr><td>S 低木層</td><td>ヤブツバキ</td><td>0.2 ~ 4</td><td>20%</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>%</td><td></td></tr><tr><td>H 草本層</td><td>ケチヂミザサ</td><td>0 ~ 0.2</td><td>60%</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>%</td><td></td></tr></table> <table><tr><td>階層</td><td>D・S</td><td>種名</td></tr><tr><td>T1</td><td>5・4</td><td>ケヤキ</td></tr><tr><td>T1</td><td>1・1</td><td>ムクノキ</td></tr><tr><td>T1</td><td>1・1</td><td>クスノキ</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> <table><tr><td>階層</td><td>D・S</td><td>種名</td></tr><tr><td>S</td><td>1・1</td><td>ヤブツバキ</td></tr><tr><td>S</td><td>1・1</td><td>イヌビワ</td></tr><tr><td>S</td><td>1・1</td><td>ヒトツバタゴ</td></tr><tr><td>S</td><td>1・1</td><td>コブシ</td></tr></table> <table><tr><td>階層</td><td>D・S</td><td>種名</td></tr><tr><td>H</td><td>2・2</td><td>ケチヂミザサ</td></tr><tr><td>H</td><td>2・2</td><td>ヘクソカズラ</td></tr><tr><td>H</td><td>2・2</td><td>ドクダミ</td></tr><tr><td>H</td><td>1・2</td><td>ネズミガヤ</td></tr></table> 資料編 P467 植物群落調査結果より抜粋	群落名:	植栽樹林群(ケヤキ)	調査日:	2022/6/29	調査地点:	14	地 形:	平坦	風 当:	中	方 位:	-	土 壌:	人工土	日 当:	中陰	傾 斜:	0	標 高:	39m	土 湿:	適	面 積:	15×30m	階層構造:	優占種	高さ(m)	植被率(%)		T1 高木層	ケヤキ	12 ~ 20	95%	備考	T2 亜高木層	スダジイ	4 ~ 12	30%		S 低木層	ヤブツバキ	0.2 ~ 4	20%					%		H 草本層	ケチヂミザサ	0 ~ 0.2	60%					%		階層	D・S	種名	T1	5・4	ケヤキ	T1	1・1	ムクノキ	T1	1・1	クスノキ				階層	D・S	種名	S	1・1	ヤブツバキ	S	1・1	イヌビワ	S	1・1	ヒトツバタゴ	S	1・1	コブシ	階層	D・S	種名	H	2・2	ケチヂミザサ	H	2・2	ヘクソカズラ	H	2・2	ドクダミ	H	1・2	ネズミガヤ	
群落名:	植栽樹林群(ケヤキ)	調査日:	2022/6/29	調査地点:	14																																																																																																							
地 形:	平坦	風 当:	中	方 位:	-																																																																																																							
土 壌:	人工土	日 当:	中陰	傾 斜:	0																																																																																																							
標 高:	39m	土 湿:	適	面 積:	15×30m																																																																																																							
階層構造:	優占種	高さ(m)	植被率(%)																																																																																																									
T1 高木層	ケヤキ	12 ~ 20	95%	備考																																																																																																								
T2 亜高木層	スダジイ	4 ~ 12	30%																																																																																																									
S 低木層	ヤブツバキ	0.2 ~ 4	20%																																																																																																									
			%																																																																																																									
H 草本層	ケチヂミザサ	0 ~ 0.2	60%																																																																																																									
			%																																																																																																									
階層	D・S	種名																																																																																																										
T1	5・4	ケヤキ																																																																																																										
T1	1・1	ムクノキ																																																																																																										
T1	1・1	クスノキ																																																																																																										
階層	D・S	種名																																																																																																										
S	1・1	ヤブツバキ																																																																																																										
S	1・1	イヌビワ																																																																																																										
S	1・1	ヒトツバタゴ																																																																																																										
S	1・1	コブシ																																																																																																										
階層	D・S	種名																																																																																																										
H	2・2	ケチヂミザサ																																																																																																										
H	2・2	ヘクソカズラ																																																																																																										
H	2・2	ドクダミ																																																																																																										
H	1・2	ネズミガヤ																																																																																																										

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)										
13	1-13	⑥「4 列いちょう並木は、景観上も重要ないちょう並木が存在する」(310頁、15 行目)は、植生の特色は記載されておらず、「景観」となっている。日本文としても、通用しない。当該再開発事業で、保全していく最も重要な、いちょう並木の現況に関する記述は、この1 行のみであり、著しく不十分な現状調査であると言わざるを得ない。 並木であるため、Braun-Branquet による総合被度推定法は、方法論としては適切ではない。ライントランセクト等、他の方法論を検討すべきであった。 詳細：日本イコモス要請書(1 月29日)、7 頁。	「4 列いちょう並木は、景観上も重要ないちょう並木が存在する」が日本文として通用しないとの指摘について、主語の「4 列いちょう並木」は群落調査の地点を示しております。植生の特徴としては p. 308 の「表 8.6-11 植生区分」に記載したとおり、<u>イチヨウ等の落葉針葉樹が優占する植栽樹群①</u>にあたります。 表 8.6-11 植生区分 <table><tr><th>群落名</th><th>概要</th></tr><tr><td>植栽樹群 (常緑広葉)</td><td>スダジイやマテバシイ、クスノキ等の常緑広葉樹が優占する植栽樹群。</td></tr><tr><td>植栽樹群 (落葉広葉)</td><td>ケヤキやトウカエデ等の落葉広葉樹が優占する植栽樹群。</td></tr><tr><td>植栽樹群 (常緑針葉)</td><td>クロマツやカイヅカイブキ、ソテツ等の常緑針葉樹が優占する植栽樹群。</td></tr><tr><td>植栽樹群 (落葉針葉)</td><td>ラクウショウやメタセコイア、<u>イチヨウ等の落葉針葉樹が優占する植栽樹群。</u></td></tr></table> 表 8.6-11 植生区分より抜粋 また、総合被度推定法ではなくライントランセクト等の方法を検討すべきとの指摘については、ライントランセクトは調査地に線を引き、ライン上もしくは複数のラインの環境的变化(地形等)とそれに応じた植生や生物相の変化を確認する手法です。一方 Braun-Branquet による総合被度推定法とは、方形区(コドラー)を設定してその中の詳細な群落構造を確認する調査手法です。今回の調査手法は、審議会の指摘を踏まえ、以下の理由により総合的に判断して選定しており、誤りはございません。 ・群落調査結果については保全対象とする指標種を設定するとともに、その生息環境となる樹林地の保全及び再生をすることを目的としていること ・本調査結果については他地点との比較が必要なこと ・当該調査範囲については地形や植生・生物相が外観的に均質と考えられること ・いちょう並木は 2018 年 12 月から 2019 年春季までの<u>毎木調査において活力度等の調査を実施②</u>していること	群落名	概要	植栽樹群 (常緑広葉)	スダジイやマテバシイ、クスノキ等の常緑広葉樹が優占する植栽樹群。	植栽樹群 (落葉広葉)	ケヤキやトウカエデ等の落葉広葉樹が優占する植栽樹群。	植栽樹群 (常緑針葉)	クロマツやカイヅカイブキ、ソテツ等の常緑針葉樹が優占する植栽樹群。	植栽樹群 (落葉針葉)	ラクウショウやメタセコイア、 <u>イチヨウ等の落葉針葉樹が優占する植栽樹群。</u>	310 15 行目
群落名	概要													
植栽樹群 (常緑広葉)	スダジイやマテバシイ、クスノキ等の常緑広葉樹が優占する植栽樹群。													
植栽樹群 (落葉広葉)	ケヤキやトウカエデ等の落葉広葉樹が優占する植栽樹群。													
植栽樹群 (常緑針葉)	クロマツやカイヅカイブキ、ソテツ等の常緑針葉樹が優占する植栽樹群。													
植栽樹群 (落葉針葉)	ラクウショウやメタセコイア、 <u>イチヨウ等の落葉針葉樹が優占する植栽樹群。</u>													

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
			<table><tr><th colspan="2">エリア名</th><th colspan="10">神戸市東灘区海辺2-8-22エリア</th><th colspan="10">調査日</th><th colspan="2">2018 年 12月28日～2019年1月28日</th><th colspan="2"></th></tr><tr><th rowspan="2">調査 番号</th><th rowspan="2">調査 地点</th><th rowspan="2">樹種</th><th colspan="2">経 緯</th><th colspan="2">樹 齢</th><th colspan="2">樹 高</th><th colspan="2">樹 冠</th><th colspan="2">樹 幹</th><th colspan="2">樹 皮</th><th colspan="2">樹 幹</th><th colspan="2">樹 幹</th><th colspan="2">樹 幹</th><th colspan="2">樹 幹</th><th rowspan="2">備 考</th><th rowspan="2">備 考</th></tr><tr><th>経度</th><th>緯度</th><th>樹齢</th><th>樹高</th><th>樹冠</th><th>樹幹</th><th>樹皮</th><th>樹幹</th><th>樹幹</th><th>樹幹</th><th>樹幹</th><th>樹幹</th><th>樹幹</th><th>樹幹</th><th>樹幹</th><th>樹幹</th><th>樹幹</th><th>樹幹</th><th>樹幹</th></tr><tr><td>101</td><td>01</td><td>海桐</td><td>139.6</td><td>34.4</td><td>0.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>2.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>2.6</td><td>1.0</td><td>A</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>102</td><td>02</td><td>海桐</td><td>139.6</td><td>34.4</td><td>0.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>2.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>2.6</td><td>1.0</td><td>A</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>103</td><td>03</td><td>海桐</td><td>139.6</td><td>34.4</td><td>0.5</td><td>1.5</td><td>2.0</td><td>2.5</td><td>2.0</td><td>1.0</td><td>2.6</td><td>1.0</td><td>A</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>104</td><td>04</td><td>海桐</td><td>139.6</td><td>34.4</td><td>0.5</td><td>1.5</td><td>2.0</td><td>2.5</td><td>2.0</td><td>1.0</td><td>2.6</td><td>1.0</td><td>A</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>105</td><td>05</td><td>海桐</td><td>139.6</td><td>34.4</td><td>0.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>2.6</td><td>1.1</td><td>A</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>106</td><td>06</td><td>海桐</td><td>139.6</td><td>34.4</td><td>0.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>2.0</td><td>2.6</td><td>1.0</td><td>A</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>107</td><td>07</td><td>海桐</td><td>139.6</td><td>34.4</td><td>0.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>2.0</td><td>2.6</td><td>1.0</td><td>A</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>108</td><td>08</td><td>海桐</td><td>139.6</td><td>34.4</td><td>0.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>2.0</td><td>2.6</td><td>1.0</td><td>A</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>109</td><td>09</td><td>海桐</td><td>139.6</td><td>34.4</td><td>0.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>2.0</td><td>2.6</td><td>1.0</td><td>A</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>110</td><td>10</td><td>海桐</td><td>139.6</td><td>34.4</td><td>0.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>2.0</td><td>2.0</td><td>1.0</td><td>2.6</td><td>1.0</td><td>A</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>111</td><td>11</td><td>海桐</td><td>139.6</td><td>34.4</td><td>0.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>2.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>2.6</td><td>1.0</td><td>A</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>112</td><td>12</td><td>海桐</td><td>139.6</td><td>34.4</td><td>0.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>2.0</td><td>2.0</td><td>1.0</td><td>2.6</td><td>1.0</td><td>A</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>113</td><td>13</td><td>海桐</td><td>139.6</td><td>34.4</td><td>0.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>2.0</td><td>2.0</td><td>1.0</td><td>2.6</td><td>1.0</td><td>A</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>114</td><td>14</td><td>海桐</td><td>139.6</td><td>34.4</td><td>0.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>2.0</td><td>2.0</td><td>1.0</td><td>2.6</td><td>1.0</td><td>A</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> いちょう並木は毎木調査において活力度等の調査を実施②	エリア名		神戸市東灘区海辺2-8-22エリア										調査日										2018 年 12月28日～2019年1月28日				調査 番号	調査 地点	樹種	経 緯		樹 齢		樹 高		樹 冠		樹 幹		樹 皮		樹 幹		樹 幹		樹 幹		樹 幹		備 考	備 考	経度	緯度	樹齢	樹高	樹冠	樹幹	樹皮	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	101	01	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.0	2.5	1.5	1.0	2.6	1.0	A	○													102	02	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.0	2.5	1.5	1.0	2.6	1.0	A	○													103	03	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.6	1.0	A	○													104	04	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.6	1.0	A	○													105	05	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.0	2.6	1.1	A	○													106	06	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.0	2.6	1.0	A	○													107	07	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.0	2.6	1.0	A	○													108	08	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.0	2.6	1.0	A	○													109	09	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.0	2.6	1.0	A	○													110	10	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.6	1.0	A	○													111	11	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	2.5	1.5	1.0	2.6	1.0	A	○													112	12	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.6	1.0	A	○													113	13	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.6	1.0	A	○													114	14	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.6	1.0	A	○													
エリア名		神戸市東灘区海辺2-8-22エリア										調査日										2018 年 12月28日～2019年1月28日																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
調査 番号	調査 地点	樹種	経 緯		樹 齢		樹 高		樹 冠		樹 幹		樹 皮		樹 幹		樹 幹		樹 幹		樹 幹		備 考	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
			経度	緯度	樹齢	樹高	樹冠	樹幹	樹皮	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹	樹幹																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
101	01	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.0	2.5	1.5	1.0	2.6	1.0	A	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
102	02	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.0	2.5	1.5	1.0	2.6	1.0	A	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
103	03	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.6	1.0	A	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
104	04	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.6	1.0	A	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
105	05	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.0	2.6	1.1	A	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
106	06	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.0	2.6	1.0	A	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
107	07	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.0	2.6	1.0	A	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
108	08	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.0	2.6	1.0	A	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
109	09	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.0	2.6	1.0	A	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
110	10	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.6	1.0	A	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
111	11	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	2.5	1.5	1.0	2.6	1.0	A	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
112	12	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.6	1.0	A	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
113	13	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.6	1.0	A	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
114	14	海桐	139.6	34.4	0.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.6	1.0	A	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
			資料編 p. 234 毎木調査結果表より抜粋																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
14	1-15	図8.6-5(3) ③緑地（並木東側）の植生断面図 延長約300m におよぶ並木東側の緑地であり、いちよう並木を支える緑地帯として、創建時より継承されている。 植物社会学の群落調査の基本を踏えない、10m×60mの長大な区画が1ヵ所しか調査されなかったため、群落構造が正しく把握できていない。（資料編470頁） 詳細：日本イコモス要請書（1月29日）の8～9頁に詳述。	植物群落調査において、緑地（並木東側）の調査地点が1ヵ所は不十分との指摘について、緑地（並木東側）は基本的には改変を行わない場所であるとともに、植生は均質となっております。また、調査地点・範囲については、既存技術資料※を参考に外観的に均質と考えられる植生のまとまりを対象に必要な面積で実施しています。そのため、当該樹林帯の代表箇所1箇所の調査で十分と考えております。 植物群落調査の調査区の設定は、既存技術資料※では現地の状況に応じてその形状は変更されるものとされており、本調査でも現地の状況（形状等）を踏まえて適切に設定しています。調査範囲については、既存技術資料※を参考に外観的に均質と考えられる植生のまとまりを対象に、必要な面積で実施し、群落構造を正しく把握しています。【補足資料 No. 1、No. 2、No. 3 参照】 ※既存技術資料：自然環境アセスメント技術マニュアル(自然環境研究センター)、森林立地調査法(森林立地学会)、河川水辺の国勢調査マニュアル(国交省)、新しい河川植生調査手法(案)(土木研究所)、日本の植生(学習研究社)、植生調査法Ⅱ(共立出版)等。	311

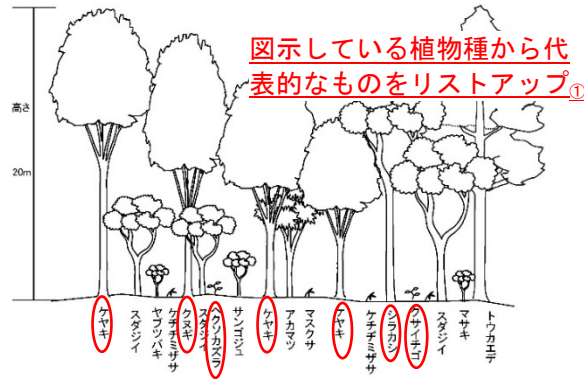
図 8.6-5(3) ③緑地（並木東側）の植生断面図

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
15	1-16	図8.6-5(6) ⑥4 列いちよう並木の植生断面図 この図は、4本のいちようを横から並べた図であり、断面図ではない。また、外苑のいちよう並木は、この図のように重なり合ってはならず、十分な間隔を確保し、植栽されている。現地をみないで書いているのではないかと推察される、杜撰な図面である。 地被植物は、カナリーキズタのみが記載されているが、実際のいちよう並木における地被植物は多様であり、この調査には全く反映されていない。	p. 312 の図 8.6-5(6)の植生断面図は現地を見ないで描いた図であるとの指摘については、実際に<u>現地で目視での確認を行った上で縦断方向（南北方向）に作図①</u>したものであり、断面図としての条件を十分に満たしております。東西方向ではなく、南北方向での断面図であるため、いちようが重なり合うことも間違いではないと考えています。 地被植物についてカナリーキズタ以外の植物が調査結果に反映されていないとの指摘については、資料編 p. 473 に記載している通り、カナリーキズタ以外にも複数の植物を確認しておりますが、代表種として当該種を記載しているもので、誤りはございません。 図 8.6-5(6) ⑥4 列いちよう並木の植生断面図	312

通し 番号	章- 番号	日本エコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
16	1-17	緑の量（緑被率、緑の体積）の項においても、神宮外苑広場（建国記念文庫）周辺は、植栽樹群（落葉広葉）と分類されており、誤った記述となっている。	緑の量の項において、神宮外苑広場（建国記念文庫）周辺は植栽樹群（落葉広葉）と分類しており誤りとの指摘について、神宮外苑広場（建国記念文庫）周辺は p. 309 記載の図 8.6-4「緑地の分布状況」を基に記述しておりますが、この図は植生調査を行った結果をとりまとめたものであり、図中では落葉樹が優占する植栽樹群に分類しています。 また、群落調査は、生態系保全の目標を設定することを目的として、詳細な群落構造を確認したものであり、調査結果は資料編 p. 467～473 に記載しています。神宮外苑広場（建国記念文庫）は評価書 p. 310 及び p. 324 に記載した通り、「<u>落葉樹の下にシラカシなどの常緑広葉樹が成立する常緑落葉混合林で構成された階層構造を有するまとまった樹林帯が存在する</u>」^①として記載させて頂いております。群落調査の結果、常緑と落葉が成立する樹林帯として記載させて頂いておりますので、誤りはございません。 (ウ) 植物群落 図 8.6-4 に示す①～⑥の植生断面図を図 8.6-5(1)～(6)に示す。また、群落組成調査結果を資料編 p. 467～473 に示す。 ① 神宮外苑広場は、樹高の高いケヤキなどの落葉樹の下にシラカシなどの常緑広葉樹が成立する常緑落葉混合林で構成された階層構造を有するまとまった樹林帯が存在する。常緑と落葉が成立する樹林帯^① 評価書 p. 310(ウ)植物群落より抜粋	322 下から 8 行目

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)																																																
17	1-18	<u>表8.6-25 現況の計画地の緑被率と緑の体積①</u> 表中、植生の分類に誤りがあるため、表8.6-25 は、改めて、正しい表を作成する必要がある。 群落高（m）は、「群落組成調査及び群落ごとの平均樹高に基づいて群落高を決定」（322頁）と記載されている。この根拠を踏まえると、表中の常緑広葉（群落高4 m）、落葉紅葉（群落高4 m）、常緑針葉（群落高4 m）は、明らかに間違った高さである。 この意味からも、表8.6-25 は、間っており、緑被率（％）、緑の体積（m³）等の基本的数字の見直しが必要な深刻な事態となっている。	「表 8.6-25 現況の計画地の緑被率と緑の体積」の表中の植生の分類が誤りとの指摘については、相観により植生調査を行った結果であり、誤りはございません。また、群落高が誤りとの指摘については、指摘の常緑広葉、落葉広葉、常緑針葉含め、全て群落組成調査及び群落ごとの代表的な地点の平均樹高に基づいて記載しており、算出した緑被率、緑の体積等についても見直しは必要ないものと考えております。 <table><tr><th rowspan="2">分類</th><th rowspan="2">No.</th><th rowspan="2">植生・土地利用</th><th colspan="4">計画地</th></tr><tr><th>面積 (m²)</th><th>緑被率^① (％)</th><th>群落高 (m)</th><th>緑の体積^② (m³)</th></tr><tr><td rowspan="6">緑地 (計画地内)</td><td>1</td><td>植栽樹群（常緑広葉）</td><td>4,880</td><td>2.7</td><td>4.0</td><td>19,520</td></tr><tr><td>2</td><td>植栽樹群（落葉広葉）</td><td>8,161</td><td>4.6</td><td>4.0</td><td>32,644</td></tr><tr><td>3</td><td>植栽樹群（常緑針葉）</td><td>417</td><td>0.2</td><td>4.0</td><td>1,668</td></tr><tr><td>4</td><td>植栽樹群（落葉針葉）</td><td>2,174</td><td>1.2</td><td>22.0</td><td>47,828</td></tr><tr><td>5</td><td>植栽樹群（混交）</td><td>9,607</td><td>5.4</td><td>18.0</td><td>172,926</td></tr><tr><td colspan="2">小計</td><td>25,239</td><td>14.2</td><td>—</td><td>274,586</td></tr></table> <u>表 8.6-25 現況の計画地の緑被率と緑の体積①より抜粋</u>	分類	No.	植生・土地利用	計画地				面積 (m ²)	緑被率 ^① (％)	群落高 (m)	緑の体積 ^② (m ³)	緑地 (計画地内)	1	植栽樹群（常緑広葉）	4,880	2.7	4.0	19,520	2	植栽樹群（落葉広葉）	8,161	4.6	4.0	32,644	3	植栽樹群（常緑針葉）	417	0.2	4.0	1,668	4	植栽樹群（落葉針葉）	2,174	1.2	22.0	47,828	5	植栽樹群（混交）	9,607	5.4	18.0	172,926	小計		25,239	14.2	—	274,586	323
分類	No.	植生・土地利用	計画地																																																	
			面積 (m ²)	緑被率 ^① (％)	群落高 (m)	緑の体積 ^② (m ³)																																														
緑地 (計画地内)	1	植栽樹群（常緑広葉）	4,880	2.7	4.0	19,520																																														
	2	植栽樹群（落葉広葉）	8,161	4.6	4.0	32,644																																														
	3	植栽樹群（常緑針葉）	417	0.2	4.0	1,668																																														
	4	植栽樹群（落葉針葉）	2,174	1.2	22.0	47,828																																														
	5	植栽樹群（混交）	9,607	5.4	18.0	172,926																																														
	小計		25,239	14.2	—	274,586																																														
18	1-19	建国記念文庫周辺に植栽樹群（落葉広葉）と、誤った区分が、繰り返して記載されている。	「神宮外苑広場（建国記念文庫）周辺等に植栽樹群（落葉広葉）」が誤りとの指摘については、通し番号6番の回答と同様に、植生調査を行った結果、神宮外苑広場（建国記念文庫）周辺については落葉樹が優占する植栽樹群に分類しています。なお、植生の分類については、全て上記同様に相観により植生調査を行った結果であり、誤りはございません。	323																																																

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)																				
19	1-20	表8.6-26 エリアごとの生態系の状況 現況調査の締めくくりとなる重要な表である。 以下、基本的な誤りがある。 ①樹林環境については、知事意見を踏まえて、植物社会学にもとづく群落調査を実施したのであるから、この科学的調査に基づく現存植生図に基づき、現況の説明を行わなければならない。その図面が掲載されていない。	「現存植生図」が掲載されていないとの指摘について、p.309 記載の「図 8.6-4 緑地の分布状況」が同図に該当いたします。 今回の調査手法は、審議会の指摘を踏まえ、以下の理由により総合的に判断して Braun-Branquet による総合被度推定法を選定しており、誤りはございません。 ・群落調査結果については保全対象とする指標種を設定するとともに、その生息環境となる樹林地の保全及び再生をすることを目的としていること ・本調査結果については他地点との比較が必要なこと ・当該調査範囲については地形や植生・生物相が外観的に均質と考えられること ・いちよう並木は 2018 年 12 月から 2019 年春季までの毎木調査において活力度等の調査を実施していること	324																				
20	1-20	②「現況の緑地の特徴」では、最も大面積をしめ、重要な緑地である絵画館前の緑地との関連が全く記載されていない。	「表 8.6-26 エリアごとの生態系の状況」に絵画館前の緑地が掲載されていないとの指摘について、絵画館前については環境影響評価の範囲対象外のため、記載をしております。 表 8.6-26 エリアごとの生態系の状況 <table><tr><th rowspan="2">エリア</th><th colspan="3">樹林環境</th><th colspan="3">市街地等</th></tr><tr><th>①神宮外苑広場 (建国記念文庫)</th><th>②中央広場と絵画館前広場をつなぐ 広場</th><th>③緑地(並木東側)</th><th>④スタジアム通り 及び第二球場北側</th><th>⑤事務所棟周辺</th><th>⑥4 列いちよう並 木</th></tr><tr><td>現況</td><td>樹高の高いケヤキなどの落葉樹の下にシラカシなどの常緑広葉樹が成立する常緑落葉混成林で構成された階層構造を有するまとまった樹林帯。緑地内に散策路を備えた滞留空間が存在する。地表部は下草(クサイチゴ等)が生えている。</td><td>沿道沿いのサクラ並木やトウカエデなどの広葉樹により形成された樹林帯。地表部は下草(クサイチゴ等)に覆われている。</td><td>樹高の高いケヤキなどの落葉樹の下にクスノキなどの常緑広葉樹が成立する常緑落葉混成林で構成されたまとまった樹林帯。地表部は下草(ツユクサやクサイチゴ等)に覆われている。</td><td>落葉樹のケヤキと常緑広葉樹のマデバシイで構成された帯状の樹林帯</td><td>常緑広葉樹を中心とした単木植栽</td><td>いちようの大木のみ構成された帯状の樹林帯。地表部は下草(カナリーキツタ)に覆われている。</td></tr></table> 表 8.6-26 エリアごとの生態系の状況①より抜粋	エリア	樹林環境			市街地等			①神宮外苑広場 (建国記念文庫)	②中央広場と絵画館前広場をつなぐ 広場	③緑地(並木東側)	④スタジアム通り 及び第二球場北側	⑤事務所棟周辺	⑥4 列いちよう並 木	現況	樹高の高いケヤキなどの落葉樹の下にシラカシなどの常緑広葉樹が成立する常緑落葉混成林で構成された階層構造を有するまとまった樹林帯。緑地内に散策路を備えた滞留空間が存在する。地表部は下草(クサイチゴ等)が生えている。	沿道沿いのサクラ並木やトウカエデなどの広葉樹により形成された樹林帯。地表部は下草(クサイチゴ等)に覆われている。	樹高の高いケヤキなどの落葉樹の下にクスノキなどの常緑広葉樹が成立する常緑落葉混成林で構成されたまとまった樹林帯。地表部は下草(ツユクサやクサイチゴ等)に覆われている。	落葉樹のケヤキと常緑広葉樹のマデバシイで構成された帯状の樹林帯	常緑広葉樹を中心とした単木植栽	いちようの大木のみ構成された帯状の樹林帯。地表部は下草(カナリーキツタ)に覆われている。	324
エリア	樹林環境				市街地等																			
	①神宮外苑広場 (建国記念文庫)	②中央広場と絵画館前広場をつなぐ 広場	③緑地(並木東側)	④スタジアム通り 及び第二球場北側	⑤事務所棟周辺	⑥4 列いちよう並 木																		
現況	樹高の高いケヤキなどの落葉樹の下にシラカシなどの常緑広葉樹が成立する常緑落葉混成林で構成された階層構造を有するまとまった樹林帯。緑地内に散策路を備えた滞留空間が存在する。地表部は下草(クサイチゴ等)が生えている。	沿道沿いのサクラ並木やトウカエデなどの広葉樹により形成された樹林帯。地表部は下草(クサイチゴ等)に覆われている。	樹高の高いケヤキなどの落葉樹の下にクスノキなどの常緑広葉樹が成立する常緑落葉混成林で構成されたまとまった樹林帯。地表部は下草(ツユクサやクサイチゴ等)に覆われている。	落葉樹のケヤキと常緑広葉樹のマデバシイで構成された帯状の樹林帯	常緑広葉樹を中心とした単木植栽	いちようの大木のみ構成された帯状の樹林帯。地表部は下草(カナリーキツタ)に覆われている。																		

通し 番号	章- 番号	日本エコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)																
21	1-20	③土壌は、具体的な土壌名の記載、深さの記載が必要である。	具体的な土壌名と深さの記載が必要との指摘について、これらについては資料編 p. 474～p. 475 に記載しております。	324																
22	1-20	④植物のリストアップの基準が記載されていない。 一例をあげれば、当該区域の潜在自然植生であり、樹齢100 年を超える多数の巨木として分布しているスダジイ等が欠落していることは、エリアの特色の総括表としては、基本的事項が欠落していると判断せざるを得ない。	表 8. 6-26 に記載の植物種の記載の基準については、p. 310～p. 312 の植生断面図の図示している植物種から代表的なものをリストアップ^①しております。 また、スダジイの記載が欠落しているとの指摘については、当該地区の潜在自然植生に分類しており、表 8. 6-26 やそれを説明した文章^②にも記載しております。  <table><tr><th colspan="2">エリア</th></tr><tr><td colspan="2">①神宮外苑広場 (建国記念文庫)</td></tr><tr><th>生産者</th><th>植物</th></tr><tr><td></td><td>ケヤキ</td></tr><tr><td></td><td>シラカシ</td></tr><tr><td></td><td>クヌギ</td></tr><tr><td></td><td>クサイチゴ</td></tr><tr><td></td><td>ヘクソカズラ</td></tr></table> 図 8. 6-5(1)①神宮外苑広場（建国記念文庫）の植生断面図より抜粋 表 8. 6-26 エリアごとの生態系の状況より抜粋 5) 陸域生態系の状況 動植物の既存資料調査及び現地調査結果を基に、計画地及びその周辺における生態系の機能や構成要素、食物連鎖による生態系構成要素は、表 8. 6-26 に示すとおりである。計画地は、生産者である植生の状況から生態系の機能として、樹林環境及び市街地等の 2 区分に分類される。 表 8. 6-26 を説明した文章^② 生産者としては、ケヤキ、スダジイ、クスノキ、シラカシ、イロハモミジ、イチョウ等の植栽樹、ツユクサ、カナリーキツタ、ヘクソカズラ、クサイチゴ等の草本群落があげられる。	エリア		①神宮外苑広場 (建国記念文庫)		生産者	植物		ケヤキ		シラカシ		クヌギ		クサイチゴ		ヘクソカズラ	324
エリア																				
①神宮外苑広場 (建国記念文庫)																				
生産者	植物																			
	ケヤキ																			
	シラカシ																			
	クヌギ																			
	クサイチゴ																			
	ヘクソカズラ																			

p. 323 「5)陸域生態系の状況」より抜粋

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
23	1-21	図8.6-6 緑のネットワークの状況 (現況) この図は、外苑の設計意匠の基本を知らない調査者が、恣意的に書いたものと判断され、誤りというよりは、現実を踏まえない「虚偽」のダイアグラムとなっている。 新宿御苑～外苑～青山霊園に至る南北軸は、この図に示す通りであるが、東西軸は、間違っている。 創建時の図面をみれば明らかであるが、外苑の東西軸は、絵画館の前景を東西に支えるものとして設計されている。すなわち建国記念文庫の森から、絵画館前のヴィスタ景を支える東西の常緑樹林帯を経て、外周林に至り、明治記念館の庭園に至る構造が東西軸である。更に、この東西軸は武蔵野台地の崖線の緑地を包含し、東宮御所の緑地から外濠に繋がり、弁慶橋（風致地区）に至るダイナミックな構	緑のネットワークの東西軸が間違っているとの指摘については、建国記念文庫の森から、絵画館前のヴィスタ景を支える東西の常緑樹林帯を経て、外周林に至り、明治記念館の庭園に至るネットワークが存在することは認識しておりますが、当該ネットワークのみとは考えておらず、より緑量の多い場所（神宮外苑広場（御観兵衛）等）に矢印を記入しており、虚偽ではございません。	325

図 8.6-6 緑のネットワークの状況（現況）より抜粋

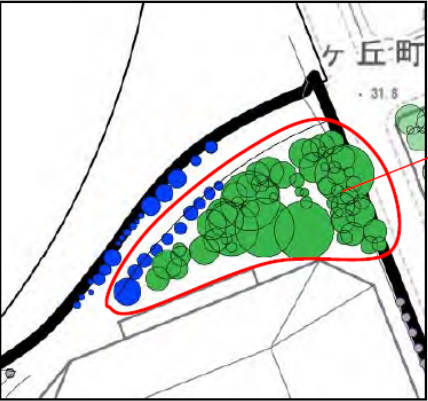
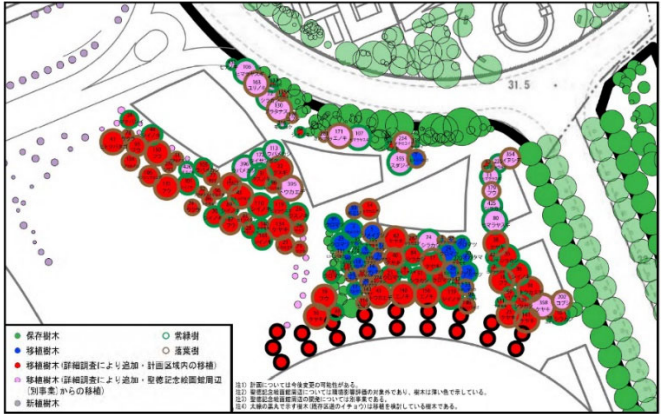
通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
		造となっており、東京を代表する緑のネットワークである。		
24	1-22	結び ①科学的調査の誤り 知事意見を踏まえて、植物社会学に基づく群落調査が行われたが、 a 調査地点の数 b 調査地点の位置 c 方形区（コドラート）のとり方の基本的間違い d 断面模式図の間違い e 森林群落ではない地区の調査法の間違い など、ほとんどすべての項目において科学的調査が行われなかった。	調査地点、方形区のとり方、断面模式図、調査法が間違っているとの指摘について、調査地点については前述のとおり、既存技術資料※を参考に外観的に均質と考えられる植生のまとまりを対象に、必要な面積で実施しています。 また、調査区の設定は、樹木の樹高に合わせて方形区で設定することが一般的ですが、既存技術資料※では現地の状況に応じてその形状は変更されるものとされており、本調査でも現地の状況（形状等）を踏まえて適切に設定しています。 調査にあたっては、現地を見た上で断面模式図を描いており、4列のいちょう並木については南北方向で概ね均質な並木の中で、並木の中央付近を他の地点と調査方法を合わせて外観により調査した次第であり、調査方法に誤りはございません。【補足資料 No. 1、No. 2、No. 3 参照】 ※既存技術資料：自然環境アセスメント技術マニュアル(自然環境研究センター)、森林立地調査法(森林立地学会)、河川水辺の国勢調査マニュアル(国交省)、新しい河川植生調査手法（案）(土木研究所)、日本の植生（学習研究社）、植生調査法Ⅱ（共立出版）等。	295～325

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
25	1-22	②現存植生図及び森林群落の遷移の 考察の欠落 群落調査の成果物である「現存植生図」が提示されていない。 隣接する絵画館前の芝生広場の植生、御観兵榎の森については、既存資料調査の範囲に包含されているため、その内容を追記し、現存植生図の作成を行う必要がある。	群落調査の結果として「現存植生図」が掲載されていないとの指摘について、p. 309 記載の「図 8. 6-4 緑地の分布状況」が同図に該当いたします。 今回の調査手法は、審議会の指摘を踏まえ、以下の理由により総合的に判断して Braun-Branquet による総合被度推定法を選定しており、誤りはございません。 ・群落調査結果については保全対象とする指標種を設定するとともに、その生息環境となる樹林地の保全及び再生をすることを目的としていること ・本調査結果については他地点との比較が必要なこと ・当該調査範囲については地形や植生・生物相が外観的に均質と考えられること ・いちよう並木は 2018 年 12 月から 2019 年春季までの毎木調査において活力度等の調査を実施していること	295～325
26	1-22	③いちよう並木の特色及び生育環境の調査の欠落 保存する極めて重要ないちよう並木については、樹木そのものの調査および生育環境に関する調査は、ほとんど皆無であった。	いちよう並木の調査が皆無との指摘について、いちよう並木は 2018 年 12 月から 2019 年春季までの毎木調査において活力度等の調査を行っております。また、同調査結果につきましては、資料編 p. 230～p. 391 に記載をしております。	295～325
27	1-22	④いちよう並木・スタジアム通り・事務所棟周辺等については、森林群落ではないため、Braun-Branquet 方法論の適用は不適切である。	森林群落ではないため、調査方法が適切ではないとのご指摘については、各調査地点では、森林を形成する植栽樹群として、いちよう並木・スタジアム通り・事務所棟周辺も含めて調査しているため、誤りはございません。	295～325

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
28	1-22	⑤最も基本となる群落分類が間違っているため、将来の植生遷移の道筋を描くダイヤグラムが、全く作成されておらず、重要な予測となる、「まとまりのある生育環境なる樹林地の保全及び再生の考え方」に関する科学的根拠が提示されていない。相観による植物社会学調査の成果として基本となる「現存植生図」が作成されていない。 このため、将来の遷移を予測する方法論が提示されないままに、科学的方法論に基づかない、予測、評価が行われている。 詳細：日本イコモス要請書（1月29日）の8～9頁に記載。	「現存植生図」が掲載されていないとの指摘について、p. 309 記載の「図 8. 6-4 緑地の分布状況」が同図に該当いたします。 今回の調査手法は、審議会の指摘を踏まえ、以下の理由により総合的に判断して Braun-Branquet による総合被度推定法を選定しており、誤りはございません。 ・群落調査結果については保全対象とする指標種を設定するとともに、その生息環境となる樹林地の保全及び再生をすることを目的としていること ・本調査結果については他地点との比較が必要なこと ・当該調査範囲については地形や植生・生物相が外観的に均質と考えられること ・いちよう並木は 2018 年 12 月から 2019 年春季までの毎木調査において活力度等の調査を実施していること 将来の植生遷移の道筋を描くダイヤグラムが、全く作成されておらず、科学的方法論に基づかない、予測、評価が行われているとの指摘については、生態系保全のための予測等は、植物群落調査で把握した各群落の階層構造、構成種、その他別途実施している植物相、動物相、土壌環境調査の結果などから行っているものであり、審議会の意見を踏まえて、適正な予測評価となっているものと考えています。	295～325

2. 生物・生態系の「予測」における誤りと虚偽の報告に関する回答の要請（評価書本編：331～368 頁）

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
29	2-1	予測手法：「事業計画と現地調査結果を重ね合わせることで、予測を行う」としている。現地調査では、前項に示たように、基本的間違いが数多く明らかになった。予測手法に準拠し、抜本的見直しが必要である。	現地調査では基本的間違いが数多く明らかになったとの指摘については、1 章(通し番号 24) に記載の通り、現地調査については適切に実施をしており、見直しの必要はないものと考えております。	331
30	2-2	予測結果：図8.6-4 は、植物群落の分類が間違っており、予測は見直す必要がある。	植物群落の分類が間違っているとの指摘については、1 章（通し番号 6）に記載の通り、群落調査にて詳細な群落構造を確認した上で分類を記載しておりますので、誤りはございません。	331

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
31	2-3	植物群落の変化の程度 「事業の実施に伴い、神宮外苑広場（建国記念文庫）等の緑地が一部改変される」と記載されているが、これは、以下の観点から虚偽の報告である。 ①ラグビー場の建設に伴う神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹林地の変化を、樹木位置図、伐採・移植計画に基づき精査を行った結果、一部ではなく、80%近い樹林地が破壊されることが明らかになった。 詳細：日本イコモス要請書（1月29日10～26 頁）	神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹林地は一部ではなく、80%近くが破壊されとの指摘について、神宮外苑広場（建国記念文庫）等の緑地は破壊するわけではなく、北側は保全エリアとして残し^①た上で、文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りに移植し復元する^②計画です。なお、移植先には神宮外苑広場（建国記念文庫）等から約112本の樹木を移植し、さらに新植樹木も配置することで、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹林及び生態系を復元いたします。  神宮外苑広場（建国記念文庫）の北側は保全エリアとして残す^① 保全エリア 凡 例  図 8.6-11 神宮外苑広場（建国記念文庫）の保全エリアより抜粋  文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りに移植し復元する^② 図 8.6-13 移植樹木の樹種及び樹木番号（建設後、詳細調査等を反映）より抜粋	332

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
32	2-3	②群落調査の基本的誤りにより、復元するとされている樹林は、生態系の秩序を踏まえない樹林となっている。 詳細：日本イコモス要請書（1月29日27~38 頁）	群落調査の基本的誤りとの指摘について、群落調査については1章（通し番号11等）に記載の通り適切に実施をしており、誤りはございません。 また、評価書 p. 350 に記載の通り、文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りに復元される緑地の分類は「常緑落葉混交林」であり、現況と同様となりますので、生態系も保全される計画です。	332
33	2-3	③神宮外苑広場（建国記念文庫）の総樹木数は、149 本（資料編26~430）であり、 ・保存する樹木 58 本 ・移植する樹木 50 本 ・伐採する樹木 41 本 と計画されている。 61%の樹木が伐採・移植されることは、「一部改変」ではない。	神宮外苑広場（建国記念文庫）の61%の樹木が伐採・移植されることは、「一部改変」ではないとの指摘について、神宮外苑広場（建国記念文庫）の緑地については、全てを改変するわけではなく、北側は保全エリアとして残す計画（通し番号31 参照）です。そのため、「一部改変」と記載させていただいております。	332
34	2-4	「神宮外苑広場等から約112 本の樹木を移植」と記載されているが、毎木調査表における移植樹木数は50本であり、大幅に異なっている。	「神宮外苑広場等から約 112 本の樹木を移植」と記載は毎木調査表の数字（50 本）と齟齬があるとの指摘について、毎木調査表における移植樹木本数 50 本は神宮外苑広場（建国記念文庫）のみの本数であり、その他の場所からの移植も含めて約 112 本となりますので、記載に誤りはございません。	332

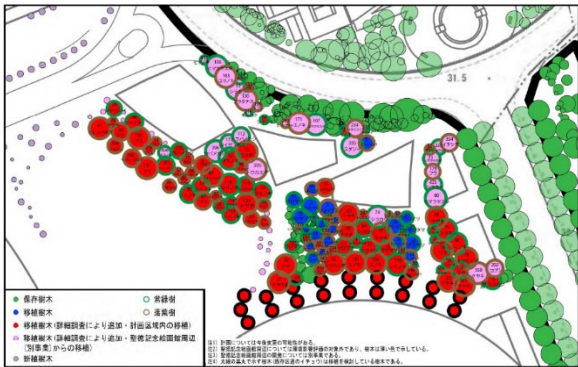
通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
35	2-5	「既存の樹林を、極力残す」と記載されているが(332 頁9 行目)、大量(61%)もの樹林が破壊される計画であり、虚偽の報告である。	神宮外苑広場(建国記念文庫)の61%の樹林が破壊されるとの指摘について、神宮外苑広場(建国記念文庫)等の緑地については破壊するわけではなく、北側は保全エリアとして残した上で、文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りに移植し復元する計画です。なお、移植先には神宮外苑広場(建国記念文庫)等から約112本の樹木を移植し、さらに新植樹木も配置することで、神宮外苑広場(建国記念文庫)の樹林及び生態系を復元する計画であり、虚偽ではございません。	332
36	2-6	「東京都風致地区条例に示される都市の風致を維持する植栽計画となっていることから、周辺地域も含めた植物相及び植物群落は維持される」(332 頁11~12 行目)と、記載されているが、樹林地は群落としての規模を維持することが不可能な規模となっており、また、絵画館前の樹林地は、風致地区A 地区であるが、最も重要である歴史的樹木が伐採・移植される計画で、風致地区を維持するとの記述は、「虚偽の報告」である。 詳細：日本イコモス要請書(1月29 日27~38 頁)	神宮外苑広場(建国記念文庫)等の樹林地が群落としての規模を維持することが不可能な規模となるとの指摘については、神宮外苑広場(建国記念文庫)等の緑地は破壊するわけではなく、北側は保全エリアとして残した上で、文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りに移植し復元する計画です。なお、移植先には神宮外苑広場(建国記念文庫)等から約112本の樹木を移植し、さらに新植樹木も配置することで、神宮外苑広場(建国記念文庫)の樹林及び生態系を復元する計画であり、樹林地の規模を維持する計画です。 絵画館前の樹林地の歴史的樹木が伐採・移植されるとの指摘について、また、風致地区条例を遵守し風致地区内での移動を行う計画であることから、都市の風致を維持する植栽計画としており、虚偽ではございません。今後も条例に従い計画を進めてまいります。 	332

図 8.6-13 移植樹木の樹種及び樹木番号(建設後、詳細調査等を反映)より抜粋

通し 番号	章- 番号	日本イコモス国内委員会の指摘	事業者の回答	評価書 (頁)
37	2-7	植物群落の変化の内容及び程度は小さいと予測する（332 頁17行目）。 植物群落は、大幅に破壊されるため、「虚偽の報告」である。 詳細：日本イコモス要請書（1月29 日27～38 頁）	植物群落が大幅に破壊されるとの指摘については、神宮外苑広場（建国記念文庫）等の緑地は破壊するわけではなく、北側は保全エリアとして残した上で、文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りに移植し復元する計画です。なお、移植先には神宮外苑広場（建国記念文庫）等から約 112 本の樹木を移植し、さらに新植樹木も配置することで、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹林及び生態系を復元する計画です。改変する神宮外苑広場（建国記念文庫）や再生復元する文化交流施設棟周辺及び中央広場周りの樹林地について、再生復元する生態系に配慮した維持管理を行い、定期的なモニタリング状況に応じた順応的管理を継続し、将来にわたって緑地環境の保全を図る計画であるため、植物相及び植物群落の変化の内容及び程度は小さいと予測しており、虚偽ではございません。	332